

共同研究「幼児を対象とした身近な用具(モノ)を使用した運動遊びの実践と検討」 の中間報告について

教育学部附属教育実践総合センターでは、地域教育の活性化を推進するため、県・市町教育委員会及び学校園と連携協力して行う共同研究事業の取り組みを支援しています。

令和7年度に取り組まれている共同研究は28件あり、そのいちプロジェクトである、山田淳子准教授と草津市立矢倉こども園が取り組む「幼児を対象とした身近な用具(モノ)を使用した運動遊びの実践と検討」の中間報告について、草津市立矢倉こども園の実践例を掲載します。

*** 共同研究者及び機関：山田淳子准教授・草津市立矢倉こども園**

*** プロジェクト名：幼児を対象とした身近な用具(モノ)を使用した運動遊びの実践と検討**

こども園の教育・保育の合言葉「こころわくわく やってみよう！はっけんいっぱい それいいね！」を達成していくために、滋賀大学 山田淳子先生からアドバイスをいただきながら、幼児の活動を交えての職員研修を実施しています。

今年度の取組のキーワードは、身近な用具(モノ)です。5月と9月の研修会では、新聞紙、タオル、ゴム紐などを使用して運動遊びを実践しました。以下、実践例を紹介します。

【タオルを使用した実践】

<実践例>

- ・タオルを持ちながら走ったり、止まったり、保育者の声かけ「寝る」「こける」などの声かけで、その言葉に合わせた動きを行う。
- ・タオルを丸めてボールに見立ててなげっこ遊びをする。
- ・タオルを並べて連続ジャンプ遊びをする。

<アドバイス>

- ・慣れてきたら、進行方向を途中で変えてみる。「後ろ歩き」を取り入れてみるのもよい。

【ゴムを使用した実践】

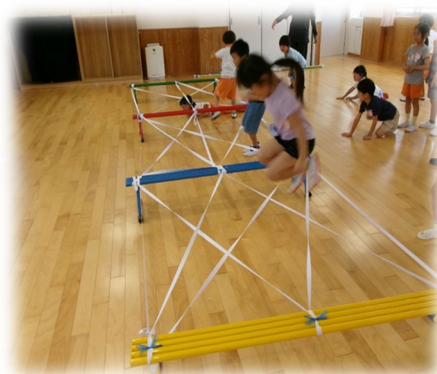
<実践例>

- ・平均台にゴムを様々な方向にひっかける。ゴムを自分が考えた方法（跳ぶ、這う、逆さになる、足を高くあげてまたごうとする など）で渡ることを楽しむ。

<アドバイス>

- ・自分で選ぶことが大切である。子どもが自らやってみたくなる様々な動きを存分にできるように見守っていきとよい。

引き続き、子どもの動きをひろげていけるような実践例を増やしていきたいと考えています。



※1年間の取組みについては、2026年3月に発行する「教育実践総合センター年報」で報告する予定です。
ぜひ、同年報の報告書をご覧ください。